

## 「鑑賞交流活動を生かした表現の工夫」

～地域の伝統文化（獅子舞）を通して～

## 1. 設定理由

本学校では、毎年地域の黒戸獅子連の獅子舞の方を呼んで実際に獅子舞を鑑賞したり、体験したりして地域の伝統文化に触れ合う機会があり、その体験を生かして絵画を製作している。しかし実際に、表現していこうとしても、「絵に表すことが苦手」「どのように描いていいかわからない」など、自信を持って活動にとりくむことができない傾向が見られる。その理由として、基礎的な技能等が身につけていないことや発達段階に伴い周囲のまなざしを意識して思いのままに自己表現ができなくなっていると考えられる。

そこで児童に、形や色、それらがもたらす感情を理解させるために、実物に実際に触れることができる場を設定する。また、友だちと一緒に体験活動をしたり、製作過程で鑑賞交流活動を行ったりする。そうすることで、絵画に必要な色彩のイメージを広げ、お互いの表現を認め合いながら製作活動に生かしていけると考え本主題を設定した。

## 2. 研究仮説

- (1) 製作過程において、意図的に鑑賞交流活動や自らの活動を振り返る活動を設定すれば、造形的な表現力を高めることができるであろう。
- (2) 題材に応じた表現方法を知り試すことで、創造性を広げ、自ら自信を持って造形活動にとりくむことができるであろう。

## 3. 研究内容

- (1) 子どもの発想を広げるための場や環境の工夫
- (2) 子どもが自分の思いを生き生きと表現できる展開の工夫

## 4. 結論

- 実際に地域の方の獅子舞を鑑賞したり、一緒に体験活動を行ったりしてから題材設定をしたので、子どもの表現意欲へとつながった。
- 表現と鑑賞の関連を図り、全体で話し合う活動や振り返る活動を設定したことにより、自分の考えを広げたり、増やしたりすることとなり、表現の工夫へとつながった。
- 獅子舞の体験活動や自由に動作化をすることを通して、友だちとのコミュニケーションが円滑にはずみ、自分の思いを伸び伸びと表現できる場となった。
- 鑑賞交流活動を通して、お互いの作品の良さを見つけ合うことで、他者への理解を深めることができた。

## 1 研究主題

# 「鑑賞交流活動を生かした表現の工夫」

～地域の伝統文化（獅子舞）を通して～

## 2 主題設定の理由

学習指導要領での図画工作科の目標は、「表現及び鑑賞の活動を通して、感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う」である。表現と鑑賞との関係は、表現が他の人々との間に対話を生み出し、他の人々の思いや願いを受け止め、分かり合おうとする態度をはぐくみ、そのような態度や能力が、鑑賞することである。また、児童の造形活動は、表現と鑑賞がそれぞれに独立して働くものではなく、自分とものや人などとの間で、働きかけ（表現）・働きかけられる（鑑賞）ことで成り立っている。これにより表現及び鑑賞の活動において、児童の感覚や感じ方などが一層重視されることとなった。

本学校では、毎年地域の黒戸獅子連の獅子舞の方を呼んで実際に獅子舞を鑑賞したり、体験したりして地域の伝統文化に触れ合う機会があり、その体験を生かして絵画を製作している。しかし実際に、表現していこうとしても、「絵に表すことが苦手」「どのように描いていいかわからない」など、自信を持って活動にとりくむことができない傾向が見られる。その理由として、基礎的な技能等が身につけていないことや発達段階に伴い周囲のまなざしを意識して思いのままに自己表現ができなくなっていると考えられる。

そこで児童に、形や色、それらがもたらす感情を理解させるために、実物に実際にふれることができる場を設定する。また、友だちと一緒に体験活動をしたり、製作過程で鑑賞交流活動を行ったりする。そうすることで、絵画に必要な色彩のイメージを広げ、お互いの表現を認め合いながら製作活動に生かしていけると考え本主題を設定した。

## 3 研究仮説

- (1) 製作過程において、意図的に鑑賞交流活動や自らの活動を振り返る活動を設定すれば、造形的な表現力を高めることができるであろう。
- (2) 題材に応じた表現方法を知り試すことで、創造性を広げ、自ら自信を持って造形活動にとりくむことができるであろう。

## 4 研究内容

- (1) 子どもの創造性を広げるための場や環境の工夫
- (2) 子どもが自分の思いを生き生きと表現できる展開の工夫

## 5 研究計画

月	主な内容
1	・ 研究テーマ・研究仮説の検討, 決定
2, 3	・ 研究テーマ・研究仮説に基づく, 授業実践
4, 5, 6	・ 授業実践の検討, レポート作成
7, 8	・ 授業実践の考察, レポート作成, 研究のまとめ

## 6 研究の実際

(1) 題材名 「感じたこと, 見たことを表そう」 (第4学年)

(2) 題材について

### ① 児童の実態

本学級は, 男子5名・女子13名の計18名からなる学級である。1年生から単学級ということもあり, 児童はお互いの個性をよく理解し, 調整を取り合いながら学校生活を送っている。しかし, 児童の中で学級での役割ができあがってしまい, 自己主張が苦手な児童は, そのまま受け入れられ, 自分の思いを表現する場を失ってしまっている傾向がみられる。このことから学習を通した, それぞれの児童の変容も追っていきたい。

(抽出児 A児・B児・C児)

図画工作科については, どの児童も学習に対して興味・関心が高く, 特に粘土や廃材などを使った造形活動を好む児童が圧倒的に多い。逆に, 絵を描く活動では, 「自分のイメージやアイデアを形にすることが難しい。」「イメージ通りの色にならない。」などの理由から苦手意識を持っている児童が多い。また, 作りながらイメージが広がっていきける工作に比べ, 一度色を付けてしまうと, 書き直しが難しいことから, 思い通りに表現できないことを失敗と感じてしまい, 意欲を無くしてしまう児童も見られる。このことから, 造形的な表現力を高め, 自ら自信を持って造形活動にとりくむための手立てが必要だと考えられる。

図画工作科の学習で楽しい, 嬉しいと感じる時はどんな時かという質問に対しては, 「作品を製作している時」と答えた児童は, 15名であったの対し, 「友だちの作品を鑑賞している時」や「自分の作品の良さを伝えられた時」と選択した児童はそれぞれ1名であった。このことから, 鑑賞交流活動の体験が少なく, 鑑賞の仕方や図画工作科における友だちとの関わり方も希薄であったことがうかがえる。また, 「作品が完成した時」という選択肢にも4名しか解答をしておらず, 自分の作品に満足感を抱けていないことが分かった。

以上のことから, 作品製作の過程で, 子どもの発達段階に応じた「交流活動」や「試行活動」を取り入れることとした。

## ア 抽出児の実態

### A児

- ・自分の作品に自信は持てないが、造形活動や絵を描くことが好きだ。

### B児

- ・造形遊びや工作では、自ら発想を広げ活動することに苦手意識を持っているため、造形活動への参加に戸惑いがちである。
- ・絵画でも基礎的な技能がまだ身につけていないので、下描きの段階で何度も書いては消しての繰り返しを行うため、絵を完成させるのにかなりの時間を要する。

### C児

- ・観察力が不十分のため、動きがない絵を描く。また、色作りでは単色ばかりを使う。

## (1) 子どもと題材との関わり

本学校では、毎年総合的な学習の時間に黒戸獅子連の方をお招きしている。子どもたちは、獅子舞やお囃子を直接見たり触れたりする体験活動を行い、その躍動感やダイナミックさを感じることができている。獅子舞には無病息災といった、古来の人の思いも込められており、伝統的にお祭りで踊られてきた。子どもたちは、そうした獅子舞に使われる、まくり（布）の模様の意味などの調べ学習も行っており、自分の思いをイメージ化しやすい。このように、子どもたちが興味を抱き自分たちに親しみのある地域の素材（獅子舞）を活用することで、絵画に苦手意識を持っている児童も意欲的に製作に取り組めると考え、本題材を設定した。

## (2) 研究仮説との関連

### 鑑賞交流活動の工夫

- ・地域の保存会の方の思いや獅子舞を踊っている時に伝えたい思いを聞くことで、児童が心に浮かべる情景や姿、獅子舞に対するイメージを想起させる。
- ・獅子舞のダイナミックな動きや躍動感、迫力ある獅子頭を動かすなど、再度獅子舞を体験し、動作化して考えることで、獅子舞を踊っている時の人の動きをイメージできるようにする。
- ・児童が持ったイメージを交流する場を設け、思いを深める。
- ・色から受ける感情について話し合う場を設ける。言葉でイメージマップを作成させ思いの視覚化を図り、自分の思いを表す色調を見つけ、イメージを表現する見通しが持てるようにする。
- ・学習時間の終わりには、お互いの作品を見合う時間を設け、自他の作品のよいところを見つけ、自分の作品に活かし、次時の見通しを持たせる。また伝え合ったり、認め合ったりする喜びを感じることができるようにする。

### 表現活動の工夫

- ・ 赤・緑・青を主とし、深みのある色を作りだす練習を行う。その色を使って、塗り絵として準備した風呂敷模様色付けをし、筆使いの確認もする。
- ・ 下絵を描く際は、自由に獅子舞を使って動作化できる場の設定をしておく。動作化することで、人物の動きやまくり（布）の動線に気付かせる。
- ・ 製作途中では、試し描きや試し塗りができるように、十分に画用紙を準備しておき、自分の表現方法に自信が持てるようにさせる。





### (3) 題材の目標

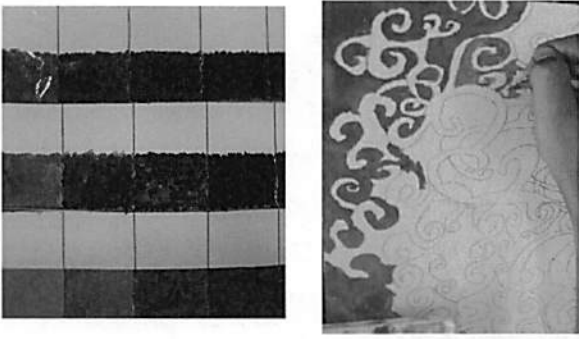


- ① 自分の身の回りから表したいことを見つけ、それを絵に表して伝えようとしている。  
【造形への関心・意欲・態度】
- ② 自分が見たり、感じたり、触れたりすることから思いを広げて、形や色、大きさなどを考えることができる。  
【発想や構想の能力】
- ③ 自分の表したいことが伝わるように、絵の具などの色づくりや混色、筆づかいなど様々に試しながら、自分のイメージに合った表現を工夫することができる。  
【創造的な技能】
- ④ 互いの感じ方や表現の仕方について友だちと話し合い、自他の作品のよさやおもしろさに気づく。  
【鑑賞の能力】


### (4) 指導計画（10時間扱い）

時間	内容
1 ・ 2	○ 実際に地域の黒戸獅子連の獅子舞を鑑賞したり、保存会の方からの話を聞いたりして二宮地区の伝統文化に触れる。 ○ 獅子舞の動きを動作化し、表現へのイメージを広げアイディアスケッチを描く。
3	○ 体感したイメージを言葉でマップに表し、視覚化する。 ○ アイディアスケッチの修正を行う。
4	○ 色によっても感情を表すことができることを知り、色作りを行う。 ○ 筆使いの確認をしながら、塗り絵を塗る。
5 ・ 6	○ 獅子頭を見たり触れたりしながら、獅子舞が大きく動く様子が表れるような画面構成を考える。
7 ・ 10	○ 獅子舞に持ったイメージ表現できるように、彩色を考えながら着色する。 ○ 色や獅子舞の表し方を工夫する。

(5) 指導実践

時間	学習活動 (子どもの様子・発言)	○ 授業者の支援 ※ 評価：(方法)・【観点】
1 ・ 2	<p>1 実際に地域の黒戸獅子連の獅子舞を鑑賞したり、保存会の方からの話を聞いたりして二宮地区の伝統文化に触れる。</p> <p>2 獅子舞を見て、表現へのイメージを広げ、アイディアスケッチを描く。</p>  <p>二人組になって、息を合わせて獅子舞を踊るのだね。</p> <p>耳を動かすのは、小指を使うのだね。むずかしいな。</p>  <p>お囃子で、獅子舞の動きを盛り上げているね。</p>  <p>実際に動いている獅子舞をアイディアスケッチしています。</p>	<p>○ 実際に地域の黒戸獅子連の獅子舞を鑑賞したり、保存会の方からの話を聞いたりすることで、表現意欲を喚起させる。</p> <p>○ 気付いたことや気を付けることをアイディアスケッチに描き込ませる。(絵で描けない児童は言葉でメモを取ってもよいことを伝えておく。)</p> <p>○ 鑑賞した後は、獅子舞の動きを動作化させる。</p> <p>※ 自分の感じたことや思いを絵に表すことへの表現意欲を持つことができた。 (観察)・【造形への関心・意欲・態度】</p>
3	<p>1 獅子舞の動きを動作化し、体感したイメージを言葉にする。</p> <p>2 色によっても感情を表すことができることを知る。</p> 	<p>○ イメージを言葉で表すことが苦手な児童には、国語の教科書に掲載されている「言葉のたから箱」を見ながらイメージさせる。</p> <p>○ 自分がイメージした言葉をクレパスを使って色で表現させる。 ※ 互いの感じ方や表現の仕方について友だちと話し合い、自他の作品のよさやおもしろさに気づく。 (作品・観察)【鑑賞の能力】</p>

<p>4</p>	<p>1 色作りを行う。</p> <p>2 筆使いの確認をしながら、塗り絵を塗る。</p>  <p>黒は他の色にまぜると色が強くでてしまうことがわかったよ！</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 言葉のイメージマップに近い色について話し合わせ、自分の思いを表す色調を見つける。</li> <li>○ イメージに合った色作りを行う。</li> <li>○ 色づけをして、感じたことをメモする。</li> <li>○ 少しずつ色を変えることによって色付けの技能を高める。</li> <li>○ 筆づかいにおいても立てて塗ったり、筆を変えたりして技能が高まった。</li> </ul> <p>※ 昔の人の思いを自分なりに感じて、絵の具などの色づくりや混色、筆づかいなど様々に試しながら、自分のイメージに合った表現を工夫することができたか。</p> <p>(観察・作品)・【創造的な技能】</p>
<p>5 ・ 6</p>	<p>1. 活動の内容を知る。</p> <p>2. 構図を考えて、下絵を描く。</p>  <p>机の上に獅子頭を置き、表情に動きがある場の工夫をした。</p> <p>こういう動きで描いているね。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前時までの活動を振り返り、これからの活動への見通しを持つ。</li> <li>○ 自分たちで獅子頭を動かしたり友だちの活動を見たりして動きを確認する。</li> <li>○ 躍動感ある獅子舞の動きを表現するために頭の位置や体の動線を考える。</li> <li>○ 獅子頭をよく見たり触ったりしながら、迫力のある顔の様子を描く。</li> </ul> <p>※ 自分が見たり、感じたり、触れたりすることから思いを広げて、形や色、大きさなどを考えることができたか。</p> <p>(観察・作品)・【発想や構想の能力】</p>

<p>7 5 10</p>	<p>1 色づけを行う。</p> <p>獅子舞の頭の部分は、クレヨンを使っているね。</p>  <p>顔に迫力があって、本当に動いているみたいだね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 目立たせたい色はクレヨンを使っていく。</li> <li>○ 自分や友だちの作品のよさや工夫したところに気付かせ、伝え合う。</li> <li>○ 作った色は、試し塗りをしてから絵に乗せるよう指導する。</li> <li>○ 同じ色味の部分から塗らせるように指導する。</li> <li>○ 毎時間の終末には、友だちの作品から真似したいところやよいところを見つけ、次時の見通しを持たせるようにする。</li> </ul> <p>※ 友だちの作品のから、様々な表現の仕方を見て、その特徴について話し合ったりしてよさを感じ取ることができたか。 (観察)・【発想や構想の能力】</p>
-----------------------	---	--

## (6) 検証授業の考察

### 抽出児A児・B児・C児の変容

#### A児

自分の思いをみんなに伝えることが苦手だったが、振り返り活動を繰り返し行うことで、学級の中で自分の思いを伝えることができるようになった。

言葉のイメージマップ作りや動作化によるアイディアスケッチを描いたりすることで、迫力のある獅子頭や躍動感の感じられる体を表現することができた。

#### B児

絵を描くことに苦手意識を持っていたが、鑑賞交流活動を繰り返して友だちの真似したいところを取り入れたり、部位ごとに具体的なアドバイスをしたりすることで、動きのある構図を描くことができた。

言葉のイメージマップで使いたい色を絞ったり、塗り絵の活動で色作りや筆づかいを確認したりしたことで、その経験を生かして着色をする活動にも意欲を持ってとりくめた。

友だちがアドバイスをしてくれる時や、友だちの作品を見て取り入れたいという思いを持ち、よい表現を自分の作品に取り入れて最後まで諦めずに描くことができた。ワークシートを活用して次時の見通しを持たせることで、活動内容もわかり意欲を持続させながら最後まで諦めずに1枚の絵を完成させることができた。



## C児

いつでも動作化できるように教室に獅子舞を置いておいたことで、描き方に困ると、友だちと一緒に獅子舞を動かし合い、動きの確認をする様子が見られ観察する力が育った。

最初のアイデアスケッチでは画面に対して獅子舞を小さく描いていたが、動作化を繰り返すことにより獅子舞のダイナミックさを大きく表現できるようになった。

色作りを練習することで、絵画では原色を多く使っていたが、混色も使って作品を表現することができた。

獅子舞と一緒に体験したことや鑑賞交流活動を何度も行ったことで、友だちとのコミュニケーションが増え、自信を持って友だちと関わるできるようになった。

### 鑑賞の場の工夫

- ・ 獅子舞を鑑賞して、自分たちが実際に体験し、動作化することで獅子舞の動きや流れが分かり、題材に興味を持つことができた。
- ・ 言葉のイメージマップから、色調につなげ交流したことで、自分の思い描くイメージを色づくりに活かすことができた。
- ・ ワークシートを使い鑑賞交流活動を取り入れたことで、友だちのよいところや色の付け方で工夫したところを自分の作品にも取り入れることができ、継続的な意欲付けにつながった。また、友だちの良さを認め合うことで、自分の作品に自信を持つことができ、達成感を味わうことができた。

### 表現活動の工夫

- ・ 深みのある色作りを練習したことで、黒の調整の仕方を知ることができた。また色の変化を作る練習をしたことで、着色の際にはベタ塗りをしてしまう児童が多かったが、筆を立てて使うことを意識できるようになってきた。
- ・ 色作りや筆使いの練習をする時間を設けたことで、着色の見通しを持ち活動することができた。また、試し描きや試し塗りができる画用紙を十分に用意したことで、納得をしてから絵に反映することができた。
- ・ 自由に獅子舞を使って動作化できる場を設定したことで、友だちとコミュニケーションを取りながら、動きの規則性や動線に気づき合うことができ、迫力あるダイナミックな作品を描くことができた。

## 7 研究のまとめ

### (1) 成果

- ・ 実際に地域の方の獅子舞を鑑賞したり、一緒に体験活動を行ったりしてから題材設定をしたので、子どもの表現意欲へとつながった。
- ・ 表現と鑑賞の関連を図り、全体で話し合う活動や振り返る活動を設定したことにより、自分の考えを広げたり、増やしたりすることとなり、表現の工夫へとつながった。
- ・ 獅子舞の体験活動や自由に動作化をすることを通して、友だちとのコミュニケーションが円滑にはずみ、自分の思いを伸び伸びと表現できる場となった。
- ・ 鑑賞交流活動を通して、お互いの作品良さを見つけあうことで、他者への理解を深めることができた。

### (2) 課題

- ・ 参考作品を観ると、似たような構図になりやすいので、さらに子どもたちが思った事を作品に表現できるようにしたい。
- ・ 赤・緑・青に黒を混ぜて色をつくる活動から、3色を主とした作品になってしまい、作品の色合いが似てしまったので、児童に色を選ばせればよかった。
- ・ 子どもの発想から表現していくと、それを具体化するためには時間がかかってしまった。年間指導計画で時数配当を見直して、発想が具体化できるような時間を確保していきたい。

# 資料編

※ 資料編1 (獅子舞の鑑賞)



お囃子に合わせて、獅子舞が舞っているよ！



後ろにいる人は、風呂敷を持って、前の人に合わせているよ！

獅子舞の耳は、ここを小指にひっかけて動かすのだね。



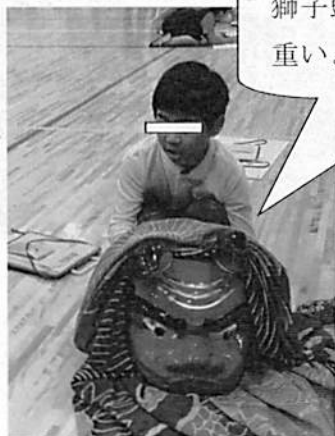
正面から見る獅子舞は、迫力あるな！！



実際に入って見ると、前が見えないよ！  
歩くだけでも一苦労だ。



獅子頭を持つだけでも、すごく重いよ！！



風呂敷の柄は、代々伝わるものなのだね。



※ 資料編2 (言葉のイメージマップ・アイディアスケッチ)

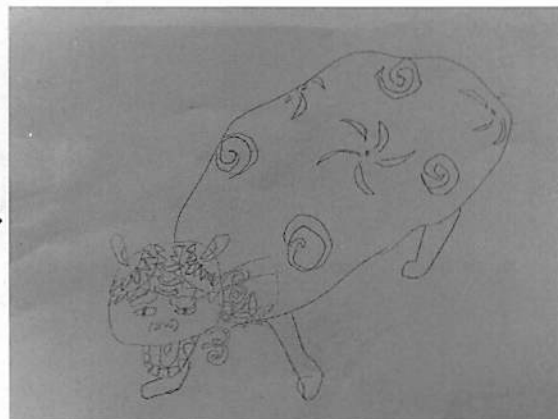
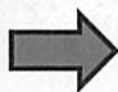
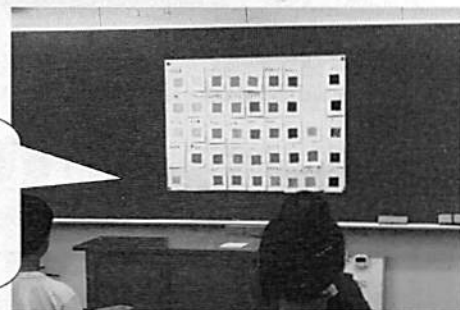
言葉でのイメージマップ



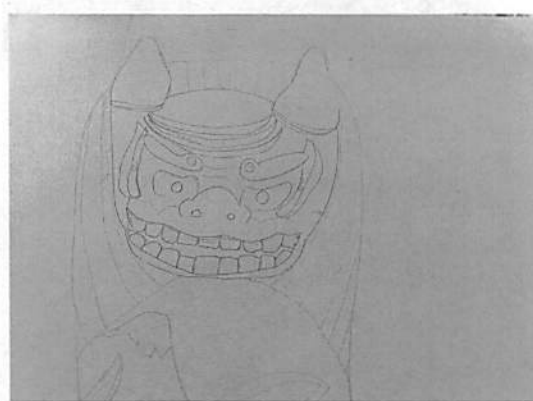
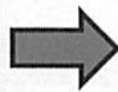
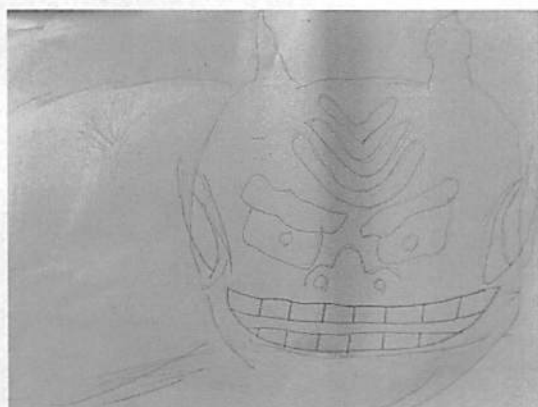
強そうなイメージだな。

国語の教科書に掲載されているものを活用して、感情や動きを表す言葉を学習しました。

感情も色で表すことができるのだね！！

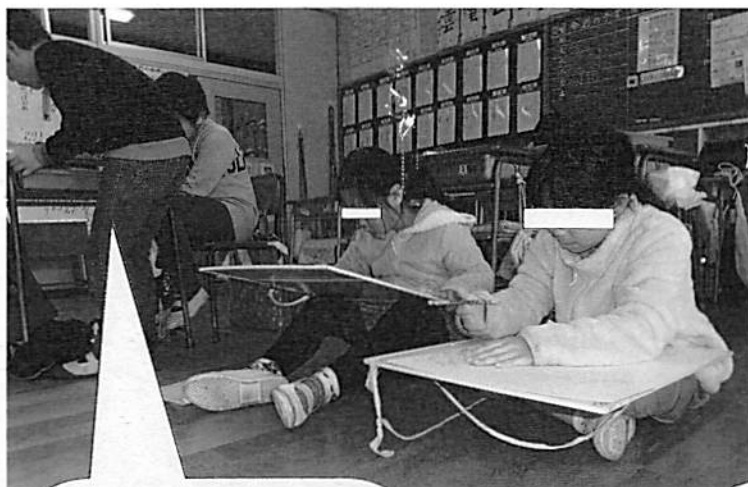


スケッチ当初は、獅子舞の体が横向きになっていたが、動作化を繰り返すことで動きが出てくるようになった。



まっすぐだった歯が、獅子頭を見たり触ったりすることで、凹凸のある歯に変わった。

※ 資料編 3 (展開や場の工夫)



「ペア」の活動の様子  
僕は、こういう動きの獅子舞を描いたけど、君はどんなイメージにしたの？



「個」の活動の様子  
言葉のイメージメモやアイデアスケッチも見ながら構造を考えているよ。



獅子頭って重たいなあ〜！

口を閉じた時と開いた時で表情が変わるよ。



二人で獅子舞を演じたよ。  
動かすのは難しいな。



「グループ」の活動の様子  
構図がわからなくなった時にも、動作化して、イメージを膨らませたよ。

※ 資料編4 (題材の獅子舞を描き終えての感想)

かく前に、地いその人の  
しまいを見たことで、  
自分がかきたい、しま  
いの動きをイメージする  
ことができました。  
また、わからなくなると  
きに、じいさんに友達とし  
まいのまねをしてみる  
ことで、自分がかきたい  
しまいを、かけました。

しはおおにいろいろな  
しゅうがあって糸金に  
かんのがむすかしおたせ  
糸金にしまいのほくかと  
うごきをかいたりするのは  
むすかしおたかともだ  
ちといっしょにしまいを  
しておてほくかやうごさ  
をひょうげんできました。

歯や人などのごまかい  
部分をていねいにかい  
実際にししまいを見た  
ことでししまいのいきみや  
分がり、上手に糸金がかか  
人それぞれちがう姿  
体の部分があり、とても  
おもしろかった。